

「伝えるべきもの」

峰岸 真雪さん

聖ウルスラ学院

英智高3年

母が語った

母も経験したことの無い戦

争の話は私は聞いている

北方領土

ロシア兵が攻めてきたとき

島民は海を泳いで逃げよう

としたという

冷たい 寒い 苦しい 痛

い

背後には恐ろしい銃が待つ

ている

彼らは何もかもを捨てて

暗く白い海に飛び込んだ

凍りの腕に囚われて

そのまま沈んで行った者は

漂い

運良く助かった者はもがき

遙か彼方にちらつく本土を

目指して

ただ助かりたいと叫び

妻も子も友も無かった

冷たい 寒い 苦しい 痛

い

お母さん お母さん お母

さん お母さん

助けて

過去の海に漂う私の心は

体を仙台に置き去りのまま

見開かれた瞳を

命尽きるその瞬間を

そして揺れ動く水面の奥に

一人又一人と飲み込まれゆ

くのを

静かに静かに見つめていた

本土に伸ばされたままの腕

は

今や水底にしか行けぬ

無念だったろう

今も無念であるろう

氷に遮られた世界は暗い

囁かれる事の無い

北の果ての戦いは

東北県民だった曾おばあさ

んに伝わり

母方のおばあさんに伝わり

母に伝わり

そして私がそれを聞いてい

る

私もそれを誰かに伝えるの

だろう

嗚呼願わくば

歴史の流れよ

無慈悲の忘却よ

無音の戦いを消し去るな

無音の嘆きを消し去るな

あすなる 講座

歴史は、どんなに小さなことでも風化していいものなんて一つもないと思う。もしあなたがこの詩を覚えていてくれたなら、作者としてこれほどうれしいことはないです。

(第4回県高校文芸作品コンクール詩部門優良賞)